



課題解決演習II

ちょこちっぷさんまいおろし

府川りんぺい 福富ゆういち
角森ともみ 三好はんな

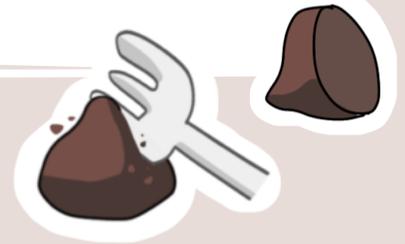


ものづくりラジオチーム様

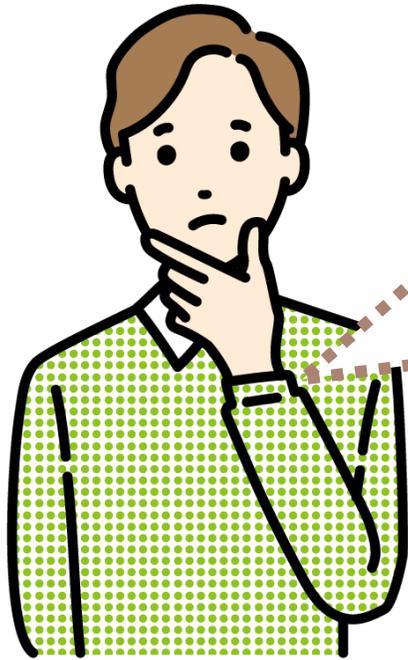
世界の「ものづくり」を盛り上げるための活動とは何か

<サブテーマ>

- 未来に必要な「ものづくり」を考え、だれかに伝えるには
- 若者に「ものづくり業界」を志してもらうためには
- ラジオで「ものづくり」を「盛り上げる」ためには



盛り上がっている状態ってどんなかんじ？



企業と市民や学生では、

「盛り上がっている状況」の認識が違うんじゃないか？

私たちはどんな企業に“盛り上がっている”と感じる？

私たちが盛り上がっていると思う企業

テスラ、Apple、スペースX、open AI



“自分の生活が変わるのではないか”と期待を抱ける企業

連想されるキーワード(抜粋)

関心が
寄せられ
てる

アイデア
が多く集
まってる

人が
集まって
いる

共感

信頼

期待

仮説

広島のものづくり(企業・業界)を盛り上げる活動とは、

**市民や学生が、広島のものづくり企業に対して、
「自分の生活が変わっていく期待」を抱けるようになる活動**

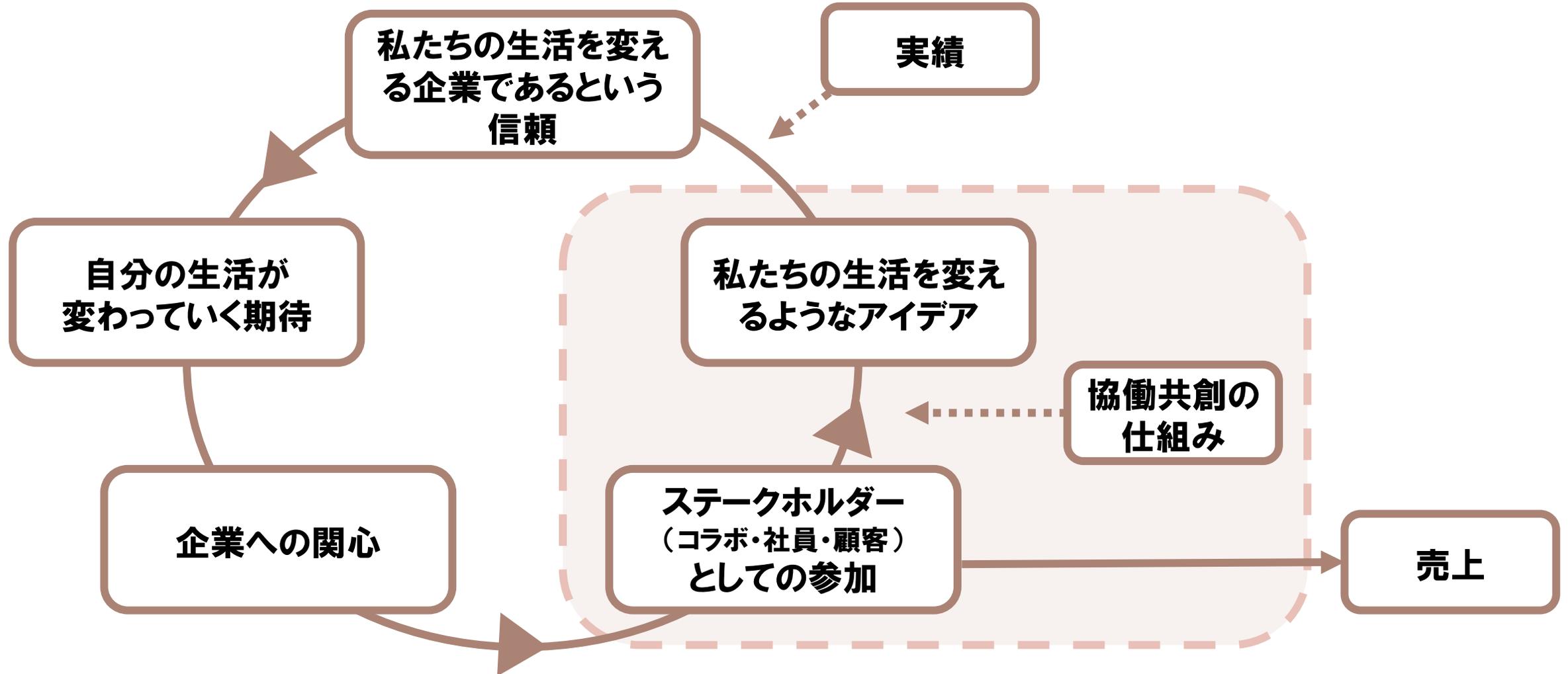


では、どのような背景があれば、(ものづくりに関心を持っていない)
市民や学生が、広島のものづくり企業に対して、「自分の生活が
変わっていく期待」を抱くだろう？

目指すループ (To be)



私たちが考える、
「自分の生活が変わっていく期待」を抱けるループ



ニーズステートメント

ものづくり企業にとって、その企業の事業に関わっていない人達が、
“自分の生活が変わっていく期待”を企業に寄せられるようになるために、

1

多様な視点が集まって「私たちの生活を変えるようなアイデア」を出し、実現するプランを可視化する方法

2

学生や市民が企業への関心やものづくりへの関心を寄せていなくても①に参加できる方法

ニーズステートメント

Must have

- 小学生、ものづくり企業、労働者、大学生を集める（多様な視点の確保）
- 消費者の多様な視点（日常の困り事や解決してほしいこと）を正しく聞ける

Nice to have

- 専門家、高齢者、公務員、中高生、外国に住んだことがある人を集める
- 消費者の多様な視点を直接聞ける（双方向での意見）
- 定期的に開催することで、消費者の状況変化を知ることができる

解決策



産業

学

生

市民

共創型PBLワークショップ(仮)

ものづくり企業へのポテンシャルを感じてもらい、ものづくりの盛り上がりを演出する

- ①人を集めてモノづくり企業とのコミュニケーションを発展させる
- ②参加者をつくったアイデアを実現させていくプロセスを可視化する

解決される課題

広島のものづくり企業が
「盛り上がっている」と（企業、学生、市民
が）感じている、と言えない現状

詳細

変えたい事やありたい未来をもとに**多様な視点**からアイデアを集めるワークショップと、集めたアイデアを実現させるためのワークショップを、学生ファシリテーションで実施。様々なプロジェクトを産学民で立ち上げ、進捗や成果を「ものづくりラジオ」のチャンネルで発信する

解決策詳細



アイデアを集めるためのワークショップ

学生や市民が中心となり、
多様なアイデアを出す

これを変えたいな
こんな広島になったらいいな

どうやって
多様な人を
集めるのか

アイデアの
出し方にも
工夫必要



アイデアを実現するためのワークショップ

ものづくり企業が中心となり、
アイデアをどのように
実現させれるか
ものづくり企業として
何ができるか検討

周りの企業を巻き込み
プロジェクトを立ち上げ
アクションを起こしていく



進捗報告

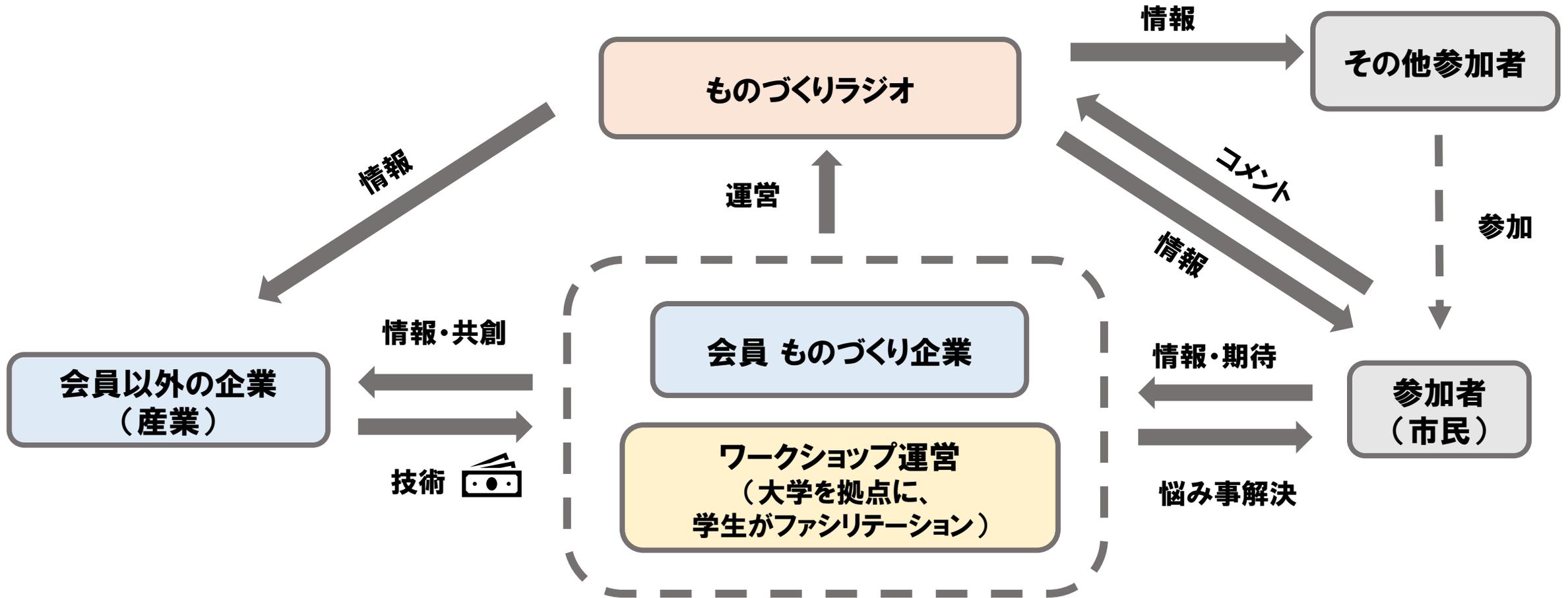
”Instagram” や”H Jank Factory
HP” で進捗状況を報告

みんな集まって
こんなことができたぞ！
こんな広島になるぞ！
など、生活が変わっていく
期待を高める

ものづくり
ラジオ等を
使って共有



CVCA



検証しなければならないこと



- ワークショップを通じて期待度の高いアイデアが出るのか
- 実現可能か検討できるイノベータータイプなアイデアが出るかどうか
- 進捗や結果をシェアする際に周知できるのか
- 企業に対して自分たちの生活が変えられる期待をもつことが、その企業が盛り上がっているという評価に繋がるのか

検証（PBL）



【検証する仮説】

ワークショップを通じて、
期待度の高いアイデアがでるのか

【検証の目的】

期待度の高いアイデアを集める方法として
ワークショップが適切であるかどうかを確かめる

【検証結果】

14週間×200分をかけて行われたPBLでは、
本質的な課題の解決策が提案された。

【結果からの学び】

目的に近いアイデアを出すことができる可能性がある。しかし、PBLは長期にわたって行われるため、短時間でのワークショップではどうなるのか追加検証が必要。

世界の「ものづくり」を盛り上げるための活動とは何か

⇒ 市民や学生が、「自分の生活が変わっていく期待」を抱ける活動



未来に必要な
「ものづくり」を考え、
だれかに伝えるには

日常生活の中にある「変わってほしい事」を起点にした多様な視点での共創を土台に、共感を集めていく

若者に
「ものづくり業界」を
志してもらうためには

ものづくりに関心を寄せてなくても関われる機会をつくり、目の前で自分の生活を変えてしまえる何かが創出されていく経験を提供する

ラジオで
「ものづくり」を
「盛り上げる」ためには

市民や学生に「自分の生活が変わっていく期待」を抱いてもらえるような情報を発信する

⇒ **産学民共創型PBLワークショップ**



ご清聴ありがとうございました。

